自己点検評価（工学部体育・健康科目会議）

（2021-2022 年度前期）

2022 年 9 月 20 日提出

１　学修・教育到達目標

体育・健康科目の教育目標

心と身体の健康を管理できる能力を養成し、身体機能の維持・増進に加え、モラルの体得をねらいとしたスポーツを通じた教育（スポーツマンシップ教育）の実践により、社会の一員として誇りと責任を持ち、社会と他者への貢献ができる。

教育方針

身体活動による体力の維持向上は勿論、こころとからだの健康の自己管理能力を備えることは、社会人として期待される素養となる。また、スポーツ活動中のスポーツマンシップの実践、フェアープレイの精神から他者を尊重し、規範意識の醸成と高い倫理観を持った思考と行動ができる学生の育成を目指している。チームでの活動を通して、他者への貢献、豊かな人格形成への寄与、コミュニケーション能力の向上、負けた時の態度（ミスをした時の態度）を養うことを目指している。

各学科カリキュラムポリシー、学修・教育到達目標との連動

本科目では、理論科目では健康管理に関する自己管理能力の向上、実技科目ではスポーツを通じたスポーツマンシップの実践により、人間性の向上、コミュニケーション能力の向上、リーダーシップ、チームの一員としての役割を果たす意識の醸成に取り組んでいる。よって、他学科のカリキュラムポリシーは、コミュニケーション能力、信頼、倫理、人間性、人格など人間教育を目的にしていることから、連動している。特に、機械機能工学科、電気工学科、電子工学科、情報通信工学科、情報工学科、土木工学科の学修・教育目標、カリキュラムポリシーと連動する内容となっている。

<点検・評価>

本学の理念・目的、学修・教育目標、工学部・各学科におけるカリキュラムポリシーにおいて、倫理観に基づく行動力と豊かな人間性、コミュニケーション能力など体育科目の学修・教育目標と重なるところがある。
それらを具現化するために、行動変容を具体的な目標とした本科目の学修・教育目標は妥当であると評価できる。生活習慣の改善、メンタルヘルス、コミュニケーションに大きな影響を与えるスポーツマンシップの実践は、今まで学生が気づかなかった部分を気づかせ、小さなこと、出来ることを精一杯行う習慣を実践させ他者への貢献など，行動変容を促すことで、目標・理念の実現につながると思われる。

２．教員

専任教員

体育・健康科目の専任教員は、教授（60 歳男性、48 歳男性）、准教授（40 歳女性）の 3 名。学科は、それぞれ電子工学科、情報工学科、機械工学科に分属している。本学での勤務年数は 15 年、12 年、4 年。専門領域は、運動生理学 2 名とバイオメカニクス 1 名である。

取得指導資格は日本サッカー協会 A 級コーチ、日本サッカー協会 47FA インストラクター、AFC

Fitness Coaching Certificate Level 2、日本体育協会公認アスレティックトレーナー、柔道整復師免許、JSCGT 公認指導者（ゴルフ）である。

社会における指導実績は、日本オリンピック委員会強化スタッフ（トレーナー・フィジカルコーチ）として長野オリンピック、全州ユニバーシアード、アジア大会、ワールドカップに帯同、大学ラクビー日本選手権優勝チームのフィットネスコーチ、栃木県サッカー協会優秀監督賞受賞などがある。

社会における活動には、第 77 回国民体育大会栃木県強化対策委員会委員、埼玉県サッカー協会科学委員会委員、 J リーグ所属チームの体力測定およびゲーム分析スタッフなどがある。

非常勤講師

2021 年度前期は理論・演習科目 4 名（実技兼任 2 名含む)、実技科目 10 名の計 12 名。後期は理論科目（実技兼任 2 名含む）2 名、実技科目 10 名の計 10 名。2022 年前期は、理論・演習 4 名（実技兼任 3 名含む)、実技科目 8 名の計 9 名。

2022 年 3 月に非常勤講師 1 名から前期 4 コマの辞退があった為、2022 年度前期は専任教員が 4 コマ増にして対応し、コマ数の変更はなかった。

各種目の担当は、専門もしくは 10 年以上の指導経験を持つ専任教員及び非常勤講師が担当している。スキー実習は、SAJ 公認スキー指導員の資格を持つ非常勤講師が担当し、ゴルフ授業・実習は、日本プロゴルフ協会のティーチングプロ B 級、JSCGT 公認指導者（ゴルフ）取得の教員が担当している。

非常勤講師との連携

専任は、曜日担当責任者を決め、非常勤講師全員とコミュニケーションを取る様にしている。非常勤講師のメーリングリストを利用して、頻繁に情報共有を行い、共通認識のもと各科目の運営にあたれるように配慮している。

体育科目運営組織

体育科目運営組織は、2021 年度は専任 3 名。体育職員２名。体育科目運営会議は、月 1 回実施し、必要に応じて随時打ち合わせを行った。また、デザイン工学部の非常勤講師の対応とシステム理工学部の専任教員と連携して随時、情報共有し円滑な授業運営に対応している。

2022 年前期は体育職員 1 名の職員の退職に伴い補強されず 1 名になっている。

〈点検・評価〉

専任教員の能力・資質は社会的にも認められた実績と指導力があると判断できる。非常勤講師の能力・資質は、長い指導実績と社会的に認められた質保証があると判断できる。

科目運営会議は、月 1 回の開催の他、構成人数が少ないことから、随時打ち合わせを行っていることは評価できる。非常勤講師とグループメールにより、随時連絡を取り合うことで円滑な授業運営ができていることは評価できる。

各学科との連携については、電気工学科がヘルスリテラシー＆スポーツコミュニケーション科目を 2019 年度から必修科目としたことから、欠席の続いている学生のフォローなどは電気工学科 1 年生担任の教員と連携を取っていたことは評価できる。

4 学部で年間約 2500 名の学生が実技を履修するが、学生対応、用具の手入れ、ビブスの洗濯、施設管理など 1 名の職員では手が回らない感がある。

３　教育プログラム

Ａ．授業科目

授業科目は、講義科目、演習科目、実技科目の３つからなる。

講義科目は健康科学論 A・B、スポーツ健康学、スポーツ社会学、スポーツ生理学、身体運動のバイオメカニクスからなり、2021 年度・2022 年度前期は健康科学論 A・B 担当非常勤講師が退職し、担当適任者が見つからず休講とした。

演習科目は、初年次教育としてヘルスリテラシー＆スポーツコミュニケーションを設置し、一人暮らしを始めた学生、友達のいない学生、メンタルに悩みを抱えている学生に配慮している。

実技科目は、チームスポーツと個人スポーツ、種目別に運動強度を明示して学生の体力レベルに応じて選択しやすくしている。また、生涯スポーツにつながるスキー、ゴルフについては集中授業も設置している。

Ｂ．内容

ａ．講義科目

スポーツ社会学：社会現象としてのスポーツをめぐる諸問題を集団や社会あるいは文化の側面からとらえ、社会（地域社会）におけるスポーツのあり方について解説する。

スポーツ健康学：人間が生活する上で必要不可欠である「健康」がスポーツとどのように関連しているかについて、様々な角度から考え、理解することを目的としている。また、スポーツの実践によって得られる効果・効能について正しい知識について解説する。

スポーツ生理学：運動時におけるヒトの生理的適応反応やそのメカニズムについて解説する。特に、生活習慣病を予防するためのライフスタイルを開設する。からだの構造・機能を知ることで、工学にも応用できる考え方ができる様に解説する。

身体運動のバイオメカニクス：スポーツ動作の良し悪しの原因を探るためには、動作の見方・捉え方や分析すべき目の付け所を決めることが大切となる。また、パフォーマンスの向上ばかりではなく、日常生活におけるケガの予防の観点からも、動作を的確に捉えることは重要である。スポーツ動作に限らずヒトの動作を客観的に捉え、それをさまざまな場面に生かせるように解説する。

ｂ．演習科目

ヘルスリテラシー＆スポーツコミュニケーション：初年次授業として、1 年生前期にのみ開講している。スポーツマンシップ、スポーツ栄養学と休養（睡眠含む)、トレーニング理論、こころのコンディショニング、ヘルスリテラシーの講義を前期の半期間実施した後、コミュニケーションを重視したフラッグフットボール、もしくはフットサルを実施している。授業では試合を主に実施している。実技は、授業外において学生間のコミュニケーションを多くとるために授業外学習として、プレーの作成、チーム練習を課しており、初年次授業であることから、友達作りの仕掛けとして授業外でコミュニケーションを取る機会を作っている。

実技科目と同様に、健康状況調査、UPI 調査、生活習慣チェックシートの提出を課している。理論部分のテストは、Scomb を用いて実施し、試験時間 20 分で 40 問の出題とした。

2021 年度、2022 年度前期は対面授業として実施した。講義の週はハイブリッドで同時配信にも対応し、実技の週は実技の内容に準じて感染予防の講義を実施した後、実技の授業に入った。

聴覚障害の学生のいるクラスでは、口元が見えるマスクの着用、補聴器連携のマイクの着用、UD トークの起動と連携、パワーポイントによる説明時は字幕テロップが流れるように配慮した。また、ノ

ートテイカーの zoom への招待をした。実技時は、ノートテイカーからホワイトボードによる伝達をお願いした。オンライン申請が出されている学生の履修が 1 名あり、電気工学科は必修科目であったことから実技授業時もオンライン配信し、チームメンバーと zoom でミーティングなどコミュニケーションが取れるように配慮した。

実技の期間は、授業外学習として月曜 5 限目のグランドを開放し、申し出があった場合に各チームでの練習ができるように配慮した。他、空き時間で授業に支障のない施設は貸し出すように配慮した。

ヘルスコンディショニング演習：健康を維持・増進するための知識と様々な運動を実践する中で、より自分に適した運動を模索する。最終的には自身が健康になるためのトレーニングを計画・立案できるようにする。また、運動効果を確認する測定法とトレーニング方法を学ぶ。

ｃ．実技科目

実技科目においては、1、2 週目に講義を行い、スポーツマンシップの説明と授業における実践について解説し、学生全員が共通認識を持って行動できるようにしている。実技前に、健康状況調査による既往歴の把握、メンタルヘルスパターンにより困ったことなど学生の状況の把握と相談の機会を設けている。

各スポーツ種目を通してスポーツマンシップの実践に取り組むことが大きな目標となっている。コミュニケーションの要素で最も影響を与える Visual、つまりノンバーバルなコミュニケーションを実技科目では重要視し、視線、表情、態度、行動など誠実さを相手に感じさせることができる身体的コミュニケーションを目指している。

各スポーツ種目では、技術の伝授、チームミーティング、チーム内での自分の役割の認識、問題に対してチームで取り組む習慣、リーダーシップの発揮などが課題として挙げられる。個人種目においては、ダブルス、団体戦などを取り入れ、他者と関わる機会を多く取り入れる工夫をしている。

2021 年度、2022 年度前期は対面授業とした。2021 年度からはコロナウイルスと感染症、感染予防についての講義を行い、対面授業にそれぞれが安心した授業を実施するための共通認識を持ち、実践することを徹底した。予防のポイントは、体調不良（発熱、家族の発熱、感染）の場合は授業に出席しない、大声の禁止、授業前後での手洗いと消毒、近距離でのマスクの着用、感染予防で気になる場合は，変に気を遣わずに相手に伝える事とした。2022 年前期は、熱中症予防に関する指針として文科省からの文書もあり、脱マスクを奨励しつつ、着用は自己判断とした。

Ｃ．実施方法

ａ．授業の形態

2021 年度・2022 年度前期は基本的に対面授業とした。しかしながら、2021 年度前期はスポーツ社会学だけ非常勤講師の事情によりオンライン授業としたが、2022 年度前期は対面で実施した。2021 年はスポーツ健康学については当初は対面だったが、緊急事態宣言の発令もあったため、途中から対面とオンラインのハイブリットとした。他の科目は原則対面授業とした。講義は同時配信、動画の格納をして学生に通知した。体調不良（感染の可能性がある場合）等イレギュラーなオンライン希望の学生には、不利益にならないように個別対応した。

ｂ．教員配置

実技科目は、2021 年度専任 3 名と非常勤講師 11 名で実施。非常勤講師は教育実績が 10 年以上のキャリアを持つ講師が担当し、それぞれのスポーツ種目の経験者もしくは指導歴の長い教員が担当している。なお、2021 年度はスキーSC がコロナ感染者増で休講としたため非常勤講師は 1 名減となり 10

名で対応した。2022 年度前期は、急遽非常勤１名の辞退があったため非常勤講師 9 名で実施。

演習科目は、2021 年は専任教員３名で８コマ、非常勤講師２名で 4 コマ担当。2022 年前期は、専任教員３名で８コマ、非常勤講師３名で 5 コマ担当した。

講義科目は、スポーツ健康学は専任教員１名、身体運動のバイオメカニクスは専任教員と非常勤各１名、スポーツ社会学は他大学の教授職の非常勤講師１名、スポーツ生理学はトレーナー活動をしている非常勤講師１名が担当した。2022 年前期は、スポーツ社会学だけの開講となったため、非常勤講師 1 名で実施した。

D．開講数

a. 実技科目

2021 年度前期 32 コマ、後期 36 コマ。2022 年前期は 30 コマ開講している。前期開講種目はテクニカル（T）と後期開講科目はスポーツコミュニケーション（SC）に分かれており、テクニカルは個人技能、スポーツコミュニケーションはチームとしての戦略戦術が課題となる。

実技科目であることから、各種目特性により安全性の確保を考慮し、例年 30 名～50 名程度の履修制限をしていたが、新型コロナ感染予防の観点から 2021 年度、2022 年度前期は基本的に 24 人を履修定員とした。ゴルフと豊洲開講科目は 12 人を履修定員とした。種目は、個人競技、チーム競技、種目による運動強度を明示し学生の体力レベルにより履修しやすく配慮している。

履修人数は、2021 年前期 616 名、後期 805 名。2022 年前期 693 名であった。

b. 演習科目

ヘルスリテラシー＆スポーツコミュニケーションは、2021 年度、2022 年度前期共に 10 コマ。履修人数は、2021 年前期 328 名。2022 年前期 317 名の履修があった。

ヘルスコンディショニング演習は 2021 年後期に 1 コマ、履修人数は定員の 12 名であった。

c. 講義科目

2021 年度前期：スポーツ社会学 2 コマ、スポーツ健康学。後期：身体運動のバイオメカニクス 2 コマ、計 4 コマ。2022 年度前期は、スポーツ社会学 2 コマを実施。

履修人数は、2021 年前期 222 名、後期 187 名、2022 年前期 139 名であった。

2021年度前期

講義・演習科目	コマ数	実技科目	コマ数
スポーツ社会学	2	バレーボール(T)	3
スポーツ健康学	1	卓球(T)	4
ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	10	フットサル(T)	7
		バドミントン(T)	6
		テニス(T)	1
		バスケットボール(T)	3
		ソフトボール(T)	2
		野球(T)	1
		ゴルフ	3
		ウエルネススポーツ(T)	1
		フィットネスA	1
計	13		32

(T):テクニカル、(SC):スポーツコミュニケーション

2021年度後期

講義・演習科目	コマ数	実技科目	コマ数
身体運動のバイメオメカニクス	2	バレーボール(SC)	3
スポーツ生理学	1	卓球(SC)	6
ヘルスコンディショニング演習	1	フットサル(SC)	6
		バドミントン(SC)	6
		テニス(SC)	3
		バスケットボール(SC)	3
		ソフトボール(SC)	1
		軟式野球(SC)	1
		フラッグフットボール(SC)	4
		ウエルネススポーツ(SC)	1
		サッカー(SC)	2
		フィットネスB	1
計	4		36

2022年度前期

講義・演習科目	コマ数	実技科目	コマ数
スポーツ社会学	2	バレーボール(T)	5
スポーツ健康学	1	卓球(T)	4
ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	10	フットサル(T)	3
		バドミントン(T)	5
		テニス(T)	1
		バスケットボール(T)	3
		ソフトボール(T)	2
		野球(T)	1
		ゴルフ	3
		ウエルネススポーツ(T)	2
		サッカー(T)	1
計	13		30

履修者数

年度	期	講義	演習	実技	合計
2021	前	222	328	616	1,166
	後	187	12	805	1,004
2022	前	139	317	693	1,149

E．学生の自主的な学修促進や学習サポート等

a．実技科目

毎日の課題は日常の生活習慣の振り返りとして、「生活習慣チェックシート」の記録を義務付けている。食事、睡眠、運動、モラル、メンタルなどチェック項目は自分のこころとからだのコンディショニングを自覚してもらい、気づきと修正の動機づけを狙いとしている。

b．演習科目（ヘルスリテラシー＆スポーツコミュニケーション）

2021 年度は、スポーツ種目が実施でき、授業外でのチーム練習、プレーの作成、グループ活動報告書の提出を課し、授業外で学生同士が問題に取り組み、解決していく機会を毎週作る様にした。また、申請制で 5 限目の体育館を使えるように配慮した。実技科目同様、「生活習慣チェックシート」を課している。

c．講義科目

毎授業内でのリアクションペーパー、課題の実施、資料を先に配布し予習復習を促している。

F．実施状況

a. 実技科目

2021 年度、2022 年度前期は、複数教員が担当しているが、スポーツ種目の特殊性以外については、毎週提出する生活習慣チェックシート、2 度のレポート、採点は同じ基準とし、同じ質の教育と評価が実現できるようにしている。2021 年度前期から、エクセルで自動計算されるフォーマットを作成し、指導者が全員使用して出席、提出物を管理し、同一基準で確実に評価されるようになった。はじめの講義においては、同じ資料、同じレポート内容とし、同じ質の教育を実施している。

2021 年度から対面授業で実施。新型コロナの感染対策に関する講義を実施し、履修者全員で感染予防行動をとる事が実施された。教場の近くに液体せっけん、消毒液を設置して、授業前後に手指消毒することで、授業内に汚染された手を持ち込まないことに協力してくれている。また、更衣室については男女ともに窓がなく通気性が悪いことから、男子は第一体育館、第 2 体育館など種目別に振り分けた。女子は第一体育館 2F 教室を更衣室とした。全ての授業において、シラバス通りの授業が実施されている。新型コロナ感染者、濃厚接触者については適切な配慮がなされた。

ゴルフの集中授業については、2021 年度は非常事態宣言下であったため通い形式で実施、2022 年度前期は宿泊形式で実施できた。残念ながら、2022 年度前期金曜日 3 限のバスケットボール T の授業で 9 名の感染者が出てしまった。

ｂ．演習科目

2021 年度、2022 年度前期は同じ資料と同じ評価表を使用し、同じ質の教育を実施した。また、実技種目に入る前に実技と同様に、対面授業で実施し、感染対策として実技と同じく感染予防のための講義を設け，実技時の実践を励行した。

全ての授業においてシラバス通りの授業が実施されている。新型コロナ感染者、濃厚接触者については適切な配慮がなされた。

ｃ．講義科目

2021 年度、2022 年度前期の講義科目は、シラバス通り授業が実施された。また、全てのグーグルドライブ内に動画ファイルを保存し、履修学生に共有した。新型コロナ感染者、濃厚接触者については適切な配慮がなされた。

〈点検・評価〉

授業科目

学生が今後、健康についての自己管理をしていくための知識としての講義科目、学生生活に早く慣れていくための初年次教育としての演習科目、スポーツマンシップの実践としての実技科目としてバランスよく設定できていることは評価できる。学生、社会のニーズを考慮して、設置科目については今後も継続して精査していくことは必要と考えている。

内容

2021 年、2022 年度前期の実技、演習授業は全て対面授業とした。感染予防に関する講義を実施して、実技時に参加学生が不安にならないように全員が共通認識を持ち実践した。講義科目は、オンライン授業と対面授業であったが、授業形態が変わっても同様な質保証ができていたことは評価できる。

実施方法

2021 年度は、スポーツ社会学以外は全て対面授業とし、2022 年度前期はすべての授業を対面授業で実施した。対面授業によるコミュニケーションの情報量はオンラインと比較にならない為、今後も感染対策を学生と共に十分準備して対面授業の継続していくことに更なる準備が必要であると感じている。

健康科学論 A、B 担当の非常勤講師が退職となり，適任者がいなく補充ができていないため休講としてしまったため、2022 年度には確実に補充し開講したい。

開講数

実技科目について、2021 年度、2022 年度前期共にほぼ定員に達している。感染リスクを考慮して定員数は大宮 24 名、豊洲 24 名の履修制限をしている。結果的に、学生一人一人に注意を注ぐことができることから、教育効果は向上していると全教員からの意見があったことは評価できる。

1991 年の大綱化以前は全学生が体育必修であったことから、実技の定員は 50 名前後のクラスが慣例となっていたが、実際には試合をするスペースがなく見学をする時間も多く、非効率的な一面があった。本学での体育実技はスポーツマンシップを介して、人間教育の一面があることから、すべての学生とコミュニケーションが十分取れ、指導者が確実に把握できる人数として、現在の定員数が学生のために適正な人数であると感じている。よって、新型コロナが終息後も現在の定員数を踏襲していきたいと考えている。

開講数については今後、履修希望者で履修できていない学生数の把握し、開講数の適正数を把握す

る必要があると思われる。しかしながら、2024 年から課程制に移行することから、増コマについては慎重な計画が必要となる。

学生の自主的な学修促進や学習サポート等

実技科目においては、日常生活の振り返りとしての生活習慣チェックシートの実施で振り返りにより、自主性を促す取り組みについては評価できる。

演習科目においては、授業時間外でのチーム単位での練習、話し合いなどコミュニケーションを取ることを課し、学生同士コミュニケーションを取る機会を作ることができたのは評価できる。結果、授業外に体育館やグランド、ネット上で打ち合わせ、練習をするグループが多くあり、コミュニケーションを取れる機会を作れたことは評価できる。

講義科目については、リアクションペーパー、課題など自主的な学修促進を促す対応をしていることは評価できる。

実施状況

2021 年度は、スポーツ社会学を除く全授業対面授業とし、2022 年度は全授業対面授業とした。感染予防については履修者全員が理解し実践したことにより、授業内での感染もなく安全に実施できたことは評価できる。

以上